



「ジェンダー」とは生物学的な性別ではなく、長い歴史や習慣によって作り上げられた「女らしさ」「男らしさ」の意識のことです。その思い込みのせいで、やりたいことができなったり、逆に何かを強要されたりしたら、それはとても残念ですね。

この思い込みに気づき、抜け出すきっかけづくりに、江南市制70周年記念地域まちづくり補助金を利用してオリジナル「ジェンダーかるた江南版」の体験会を開催しました。

まず、市民の皆様から募集した「ジェンダー川柳」の優秀作品をもとにした読み札と、愛知県立古知野高等学校のイラストレーション部の皆さんがデザインした絵札でかるたを制作しました。社会や家庭のジェンダー課題を分かりやすく表現した、楽しい作品に仕上がっていると思います。

かるた会会場では、老若男女約50名が、勝利を目指してかなり本気で闘い、たいへんな盛り上がりでした！日常を切り取ったシーンや、未来への希望が込められたメッセージの句が読み上げられる中、ゲームはにぎやかに進みました。

イベント後のアンケートで、多くの方から「ジェンダーについて楽しく学べた」「固定観念を考え直すきっかけになった」という嬉しい感想をいただきました。今後、かるたの貸し出しやワークショップ形式のイベントも検討していく予定です。



今年もジェンダー川柳を募集！

大池 小夜子

11月1日(金)～30日(土)の期間、市役所、公民館、市立図書館、地域交流センター、Home&nico ホール、KTXアリーナ、すいとぴあ江南のロビーに応募箱を設置し、あわせてwebでもジェンダー川柳を募集しました。今回は、小中学生から80代の方まで、全国の幅広い世代の皆さんから425句のご応募をいただきました。

審査は、市民の皆さんによる投票方式で行いました。市役所、ジェンダーフリーかるた会の会場、アピタ江南西店の3会場にて、応募されたすべての川柳を掲示し、一人3句まで好みの句に投票していただきました。また、webでの投票も合わせて、合計618票が集まりました。

掲示された句の前では、作品を熱心に読み込んだり、うなずいたり、思わずクスッと笑ったりする姿が見られ、市民の皆さんの関心の高さが感じられました。「初めてジェンダー川柳を知りました。ジェンダーに縛られていることに気づきました。早く本当の男女平等が広がっていくといいですね。」という感想も寄せられ、ジェンダー平等への意識を高めるきっかけづくりができたお手ごたえを感じました。

開票の結果、以下の句が各賞に選ばれました。

大賞	「男だろ！」むかし普通でいま不通	春蚊秋冬
優秀賞	ギャル道(どう)は生き抜く女の道しるべ	シニアギャル
	虫の駆除嫌でも言われる男でしょ	アマダカー
	「らしさ」とは自分につくよ男女じゃない	レインボーじゅんこ
特別賞	子育ては夫婦で一緒に助け合い	土ブロック
	「おーいお茶」今では「お茶を入れました」	アルサブア
	嫁しても老いても従うは吾が心	レインボーNAO



投票の様子

出前講座『自分らしく』生きる！』 パート2

12月9日(月)、16日(月)に宮田中学校1年生4クラス120名に向けて、男女共同参画を目的とする江南市発行のリーフレット『自分らしく』生きる！』に沿って出前講座を行いました。

まず手芸クラブに入りたい男の子とサッカー部に入りたい女の子を校長先生が勇気づけるコントから始まります。次に自分の中にある「ジェンダーの思い込み」に気づくワークを行い、ジェンダーの意味や男女共同参画社会について理解します。

そして、男女の賃金格差、女性の政治家や管理職が少ない等、男女共同参画の観点では日本は「後進国」であることをパワーポイントを使って説明します。

さらに市内で活躍する消防士の女性、保育士の男性のインタビュー内容を紹介し、職業選択においてもジェンダーにとらわれることなく、自分らしく生きることが大切であることを伝えます。

最後に皆でジェンダー川柳を考えてもらいました。多くの作品の提供をありがとうございました。



加盟団体の「バングラデシュ教育支援の会(BESS)」が現地から里子5名と引率の先生3名を8日間日本に招待し、「BESS15周年記念 セミナー&交流会」を開催しました。

11月21日(木)に、バングラデシュの皆さんと本会のメンバー12名でヤマザキマザック工作機械博物館を見学に行きました。博物館では18世紀から現代までの工作機械や、工作機械によって作られた航空機、蒸気機関車、自動車などの展示を見て回りました。

バングラデシュの皆さんはとても友好的で、言葉は通じなくても一緒に行動するうちに自然に心が打ち解け、並んで写真を撮る姿もみられました。

今、バングラデシュは長期の政権が倒れ、紛争が続いているそうです。皆さんが一日も早く安心して生活できるように祈っています。



環境委員会

トレー再生工場を見学して

栗本 明美

9月30日(月)「(株)エフピコ中部リサイクル工場」の見学に行ってきました。エフピコは岐阜県輪之内町にいくつもの工場があり、本社は広島県福山市にあります。

私たちはスーパーの店頭でお惣菜などトレーに入った商品を買っています。容器にもお金を払っていますが、それはどのような素材でできているのか、不要になった時どのように処理されていくのかを学習してきました。

回収されたトレーは人の手で選別され、異物を除き、細かく裁断して洗浄を2回行い、脱水、さらに細かく粒状(ペレット)に加工されます。それを溶かしたものを原料にして、再生トレーが作られます。発泡スチロール製トレー(つまようじが刺さるもの)は、石油を原材料にしたポリスチレン樹脂を泡のように膨らませて作られ、分別が簡単で繰り返しリサイクルができます。

エフピコでは「トレー to トレー」方式でリサイクルを行っており、再生されたトレーにはエコマークがついています。これまで難しかった色を抜く技術が開発され、2025年から色付きトレーの回収も始まります。

使ったものを捨てずにリサイクルすることはごみの量を減らすことになり、使用済み食品トレーの回収率はまだ2~3割とのこと。「捨てればゴミ、分ければ資源」分別ルールを守って、リサイクルに協力しましょう！



KONAN 子育て委員会

市制70周年記念地域まちづくり補助事業 「気軽におしゃべり&情報交換会」全3回 上田 美月

本事業では、同じ地域で子育てをする保護者同士の情報交換の場を設け、江南市の子育て環境の魅力を再発見するきっかけ作りを目的に、3つのテーマでイベントを実施しました。

情報交換会を通じて、子育ての悩みを共有し、共感し合える仲間と出会う貴重な場となりました。

<第一弾> 10月16日(水) 「食物アレルギーっ子交流会」

専門講師を迎え、食物アレルギーのあるお子さんを持つママたちが直面する悩みに答えていただきました。周囲にはなかなか理解してもらえない悩みを共有・共感し合えて、「悩みを前向きにとらえられるきっかけとなった」など、嬉しい感想をいただきました。

<第二弾> 11月11日(月) 「ふたご&多胎児交流会」

ふたごを持つママ6名にご参加いただき、ふたごならではの「育児あるある」を分かち合うおしゃべり交流会を開催しました。リサイクル品の交換や、先輩ママからの経験談なども交えた会は、ふたご子育てママ同士の新たな出会いの場になり、有意義な時間を過ごせたとの声をいただきました。

<第三弾> 12月16日(月) 「これから始める親子防災」

防災の専門講師を迎え、子どもがいる家庭に向けた防災対策についてお話いただきました。災害時に役立つ備えや、避難時の注意点など、子どもを守るための実践的な知識を学べ、とても参考になったとの感想をいただきました。私たちにとても、これから起こりうる災害に向けて、日頃の備えの必要性を意識するきっかけとなりました。



食物アレルギーっ子交流会



これから始める親子防災